

令和3年度 県立日立第二高等学校自己評価表

目指す学校像	創立以来、94年に及ぶ女子教育の歴史と伝統の上に立ち、変化してゆく現代社会にあって、校章の野ばらのごとく、「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かな人間の育成に努め、生徒一人ひとりの知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人間の形成を図る。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
【成果】 (1) 生徒の希望する進路を実現するために、授業をはじめ面接指導・課外授業等、継続的指導により、生徒数の減少にもかかわらず、例年通りの国公立大学合格者数であった。 (2) 部活動加入率は約7割で、活発に活動している。特にバレーボール部は33年振りとの全国大会「春高バレー」に出場し、本大会でも強豪チームに熱戦を繰りひろげ、2回戦進出を果たした。放送部・JRC部はオンライン開催された全国総文祭に出場した。 (3) 国際理解教育では、英語コミュニケーションコースの生徒が校内のEnglish Day（成果発表会）で令和元年度のTokyo Global Gateway（東京英語村）やJICAつくば、オーストラリア短期海外留学での学習成果を発表し、学びを深めた。 【課題】 (1) 「主体的・対話的で深い学び」及びタブレット・電子黒板等のICTを活用した授業を実現するために、相互授業参観や中学校での出前授業、研修等、全教職員で授業改善に取り組む。 (2) 中学校・地域等に対して積極的広報活動を行い、本校の特色や生徒の活動の様子等をPRするとともに、中学校・地域の要望を把握することにより本校志願者数を増加させる。	1 中卒者数の大幅減に対応するための戦術を練り、更なる戦略的広報活動を展開する。	① 「本校を知ってもらって、来てもらって、見てもらって、体験してもらって、受けてもらって、入ってもらって」という一連の流れの中での広報活動を実践する。 ② 「地域の中の学校」として、地域に向けた情報発信力を高め、中学校への出前授業などとおして、本校の魅力と特色を一層強く打ち出し、受検生の獲得に努める。	B
	2 個に応じた教育を推進し、確かな学力の定着を図り、進路実現に導く。	③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現及びタブレット・電子黒板等のICTを活用した授業改善に努める。 ④ 公開授業や相互授業参観の実施など、学習指導の質的向上を目指した校内研修体制の充実を図る。 ⑤ 学び直しや基礎学力の定着を図り、自ら意欲的に進路実現を目指す生徒の育成に努める。 ⑥ 生徒と向き合う時間の確保に努め、適切な助言指導力の向上を目指す。 ⑦ 「チャレンジ・プロジェクト事業」を通して、生徒に寄り添った体験学習を実践し、進路意識の高揚に努める。 ⑧ 令和4年度からの新学習指導要領及び看護・医療コースに向けた新教育課程の確定。 ※数値目標①（進路希望決定率100%） ※数値目標②（インターンシップ参加者20名以上）	B
	3 基本的生活習慣の定着と規範意識の高揚を図り、自己の確立を目指す。	⑨ しとやかな身だしなみに基づき、温順に快活な生活習慣を身に付けさせる。 ⑩ 清らに美しく生活するために清掃を徹底し、美化活動に努める。 ⑪ 集団の一員としての自覚を高め、他者と協働しながら課題に挑戦して解決することができる力の育成に努める。	B
	4 特別活動の活性化を図り、豊かな人間性を培う。	⑫ 自主的・主体的な部活動や生徒会活動を奨励し、心身共に調和のとれた生徒の育成に努める。 ⑬ 共に学び、共に汗をかく「師弟同行の精神」を貫く。	A
	5 国際理解教育を推進し、国際人としての素養の涵養に努める。	⑭ 英語によるコミュニケーションの機会を積極的に創出し、英語を使いながら学ぶ体験的な学習方法の確立を目指す。 ⑮ 英語を学ぶ・英語で学ぶ・ともに学ぶ姿勢で、「おもてなし英語」を身につけさせる。 ⑯ 海外短期留学や外国からの留学生との交流を通して実践的英語力育成と異文化理解の促進に努める。 ※数値目標（年間英検受験者数：2級40名以上、準2級100名以上）	B
	6 活力と魅力ある学校づくりの推進に努める。	⑰ 県立学校改革基本プランに沿った継続的検討を進める。 ⑱ 働き方改革を促進するため、教職員の業務の見直しに努める。 ⑲ 「県立日立第二高等学校の部活動に係る活動方針」に従い、安全に、短時間で効率的な部活動を実施する。	B

三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） ① 女子教育という建学の精神のもと、変化する社会の中で「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かなリーダーシップのある人財 ② 生涯の力となる学びを通して、知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばした調和のとれた、共生社会で自立できる人財	B	B	・新型コロナウイルス感染症防止のため、様々な教育活動が制限、変更される中で、効果的な方法の研究と実施 ・看護系・医療系を中心とした生徒の進路希望の実現に向けて、基礎学力の増進・定着のために、更なる授業改善への取組 ・ボランティア活動等の効果的な地域への発信 ・新型コロナウイルス感染症防止のため、効果的に、体験的な国際理解教育の推進
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） ① 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程に基づき、基礎学力の増進と進路意識の高揚に努め、生徒の適性、能力、希望に応じた進路希望の実現 ② 体系的なキャリア教育と体験的な国際理解教育の活動を通じて、グローバルな視野をもってコミュニティーを俯瞰し、看護・医療分野を始め多方面で支えることができる人間性の涵養の実現	B		
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） ① 基本的な生活習慣を確立し、学習活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに粘り強く取り組み、自己実現を目指す生徒 ② 夢を生活の原動力、将来の目標とし、それに向かって「温順にしとやかに お互いに心をあわせ 明るく快活に まじめに勤労へ」日々努力する生徒	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		創意工夫をこらした指導と充実した授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」の実現とタブレット・電子黒板等のICT活用のため、授業改善に取り組み、分かる授業を展開する。 ③④⑤	B	B	・効果的なタブレット・電子黒板等のICT活用の研究と授業改善 ・令和4年度入学生に対応した観点別評価の推進 ・臨時休業等に対応した「学びの保障」のため、オンライン授業の研究
			総合的な探究の時間（野ばらタイム）をスムーズに運営する。⑤	B		
		年間指導計画に基づいた授業の展開	シラバスを活用し、計画通りの指導内容や進度を達成する。④⑤	B		
			観点別評価を推進し、指導の改善を図る。③⑤	B		
		授業時間の確保と学力の向上	出張、年休の際に、授業交換を確実に行う。⑤	B		
			予習・復習の指導の徹底を図る。⑤	B		
教科	国語	創意工夫をこらした指導と充実した授業の展開	教材研究を十分に行い、生徒の実態に合った授業を展開し、言語活動を豊かにしようとする積極的な態度や思考力の育成を図る。③④	A	B	・新教育課程への対応と情報共有。 ・タブレット等を用いたICT活用の工夫と実践の具体化。 ・臨時休業時の課題や授業のあり方の再検討。 ・基礎学力の定着及び学力向上のための手立ての見直し。 ・年間指導計画、シラバス作成の工夫と生徒の実態をふまえた作成の検討。
		年間指導計画の作成と活用	作成したシラバスを活用し、見通しをもったスムーズな授業を展開、進度を実現する。④⑤	B		
		授業時間の確保と学力の向上	出張・年休の際の授業交換を確実にを行い、授業時間確保に努める。⑤	A		
			毎時間の授業で達成感を持たせるように努め、また、小論文講座との連携を図り、受験・就職試験等にも対応できる力を育成する。⑥	B		
			基礎学力の定着及び向上のための週末課題の工夫と、成績不振者に対する指導を計画的に行う。⑥	A		
教科	地歴・公民	基礎基本の学力の定着	定期的に課題プリント等を出して、学習習慣を身につけさせる。③⑤	A	A	・ICT機器をさらに有効活用していく。 ・入学生徒の多様化に対応したきめ細かな指導体制の確立。
			定期考査前後に、理解の不十分な生徒への指導を実施する。③⑤	B		
		多様化した生徒に対応する指導方法の工夫	写真、資料、ICT機器などを有効活用し、生徒の自主的、自発的な学習を支援する。⑤	A		
			新聞記事やテレビのニュースなどを通して、社会への興味・関心を持たせ、自らの価値観や意見の形成を図る。⑪	B		
		生徒の進路希望に対応した学習指導	受験対応のため、課外授業や小論文指導を実施する。③⑤⑦	A		
	数 学	密度の高い授業実践	目標を定め、計画的な授業を実践する。授業終了後、指導内容を点検し、次の授業に生かす。③	A	B	・学力の低い生徒が増えたため、なかなか基礎学力が定着しない。更なる授業の工夫が必要。 ・家庭学習が定着している生徒が少ない。
		基礎学力の定着	教科書の設問や問題集の演習を通し、基礎学力の定着を目指す。③⑤	B		
		家庭学習の習慣化	授業終了時に問題集から課題を与え、家庭学習の定着を図る。③	B		

		成就感・達成感の獲得	個々の生徒に独自の課題を与え、成就感・達成感を持てる授業の展開に努める。③	A		・ICT機器の有効な活用方法を検討する。
	理	生徒の自然に対する興味・関心や探究心の向上	教科指導法の創意工夫と改善に取り組み、魅力的で分かりやすい授業を展開する。③	A	B	・課外活動及び主体的な実験・観察を行う機会の確保をしていきたい。 ・タブレット端末や電子黒板を活用し、調べ学習等の時間を増やしていきたい。 ・身近な現象や実物を例に挙げながら、生徒の興味関心を引き出し、自然科学の原理や概念の本質的な理解を目指したい。
			生徒による授業評価を実施して、生徒の実態にあった授業法を確立する。③⑬	A		
	科	希望進路を実現させる確かな学力の養成	適切な問題演習の時間を確保し、密度の濃い課外授業を行う。③⑤	B		
			学習習慣を確立する働きかけを行い、家庭学習時間の増加を促す。③	C		
		科学的に探究する態度の育成	生徒が主体的に実験や観察を行う機会をできるだけ多く設定する。③	C		
			探究の過程を通して基本的概念、原理、法則を系統的に理解させる③	B		
教 科	保健 体育	心と体の健康に基づいた活 気ある生活を営む態度の育成	集団行動の必要性和重要性を理解させ、体得させる。⑪	B	B	・新型コロナウイルスの影響により、集団行動や実施できる競技に限りがあったため次年度は改善したい。
			個人や集団の実技指導により、各種スポーツの技術の向上を図る。⑤	B		
			パワーアップ体操の実施により、基礎体力の向上を図る。⑤	A		
	芸 術 (音楽)	自主的に健康管理ができる 保健指導の充実	生涯を通じて、身体的・精神的な健康がいかに大切なことかを認識させるとともに健康の維持増進を図る。③⑤	A	A	・休校による授業時数減のため、創作的課題に十分な時間が取れず、目標とする課題の完成に至らない生徒も多かった。説明や教材をより分かりやすく工夫することに努めたい。
			生涯にわたり音楽を愛好する 心情の育成	音楽に対する興味や関心を高めるため、多種多様な音楽を用いて、歌唱、器楽、鑑賞、創作の授業を展開する。③⑤	B	
			感性の向上を目指した音楽文化の理解と鑑賞の充実	鑑賞を通して、音楽の歴史や文化、音楽と生活や社会とのつながりについて理解を深める中で、豊かな感性を育成する。③⑥	A	
	芸 術 (美術)	個性豊かな表現力と他者との協働を通した思考力の育成	基礎力の定着を図り、表現や鑑賞において他者と協働しながら合奏し躓きを克服できる思考力・表現力を育成する。⑤⑪	A	B	・3つの観点のうち知識・技能の習得に課題があったため、特に知識を体験的に習得できる題材を考えたい。具体的には素材と身体的に関わる造形活動の授業を
			美的体験を豊かにする題材の設定と教材研究を十分に行い、生徒が意欲的に取り組む授業を展開する。③	B		
	芸 術 (美術)	生涯にわたり美術を愛好する 心情の育成	作品制作や鑑賞教育を通し、美術と他の芸術や、時代、社会との関わりに関して興味関心を高める。③⑤	B	B	

		美術を通じた思考力・表現力の育成	作品の主題や背景を読み取る鑑賞や、発想構想を重視した表現活動、言語活動を含む授業を設定し、生徒の思考力・表現力を育成する。 ③	A		考案する。 ・鑑賞の際に実物の作品を用意したり、謎解きのような展開で鑑賞を進めたりと、鑑賞の観点を自ら発見し関心を高められる鑑賞活動を工夫したい。
教科	外国語 (英語)	英語に対する興味付け	ALTとのTTの工夫、学校外活動の実施などを通し、コミュニケーションの手段としての英語の重要性を理解させる。 ④⑪⑭⑮⑯	A	A	・現在、英検やGTECの受験指導を放課後の課外や、希望する生徒には昼休みや放課後に実施できた。生徒の進路実現につながることで、今後も継続していきたい。 ・生徒に家庭学習を習慣化させるのに苦労している。生徒に家庭学習の必然性を理解させ、継続できるような方法を教科担当間で話し合っていく必要がある。 ・異文化理解、自国の文化や伝統の理解には、他教科との連携が必要だと感じた。他教科との連携を密にして指導に活かしたい。 ・高大連携やJICAつくば、British Hillsへの校外学習では、外国出身の講師との研修を通し、異文化への理解を深めることができた。
			英検やTOEIC、GTECなどの資格試験の情報を的確に与え、英検課外などを通して積極的に挑戦し、進路実現へとつなげさせる。 ③⑮	A		
		家庭学習の習慣化	予習の仕方を的確に指導し、家庭学習の習慣化と効率的な学習方法を理解させる。 ③⑤	B		
		基礎学力の定着	定期的に小テストを実施することにより、生徒に理解の程度を把握させる。 ③⑤	A		
			昼休みや放課後に生徒の質問に積極的に応じ、それぞれの疑問点の解消に取り組む。 ③⑤	A		
		英語による活動の推進と指導研究	英語による活動を通して、英語による思考力・判断力・表現力を育成する。 ③⑭⑮	A		
		国際理解教育の推進	異文化を理解尊重するとともに、我が国の文化や伝統を大切にする態度の育成を図る。 ⑭⑮⑯	B		
			ALTや外国人講師、社会人講師の積極的な活用を図る。 ⑭⑮⑯	A		
			大学や地域、外部機関との連携を図り、有効な体験活動や学習指導を実施する。 ②③⑭⑮⑯	A		
			「チャレンジ・プロジェクト事業」を推進し、専門コースの特色作りを行い、学校の活性化に役立てる。 ②③④⑥⑭⑮⑯	A		
家庭	家庭	基礎的な知識と技能の習得	実践的・体験的な学習活動を通して、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を習得させる。 ⑤	B	B	・タブレット端末を活用する学習指導の方法を検討していきたい。 ・ホームプロジェクトなど、活動した内容を発表させ、生徒同士が互いに学び合う場を設けたい。
		課題解決能力の育成	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、生活の中から問題を見だし、解決方法を考え、実践する力を育てる。 ③	B		
		自己の生活と社会を結びつけた学習の充実	現代社会の様々な課題を自己の課題としてとらえ、多面的・多角的に考察する力を養う。 ③⑤	B		

	情報	情報に関する科学的な見方や考え方の育成	講義・実習を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養う。 ⑤	B	B	・新課程に沿った指導方針と内容を検討していきたい。
		社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の育成	情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。 ⑪	B		
教 務		教育課程の課題の検討と改善	令和4年度入学生から始まる新教育課程及び看護・医療コースの課題を検討し、改善を図る。 ⑧	A	A	・教員定数減に伴う適切な役割分担（3年担任の中学校訪問、仕事の引き継ぎの徹底等） ・考査の出席停止願や追考査願などの提出締切の遵守。 ・特編及び考査の時間割編成のマニュアル化。 ・校務支援システムの運用マニュアル化。 ・図書委員を主体とした図書館企画の充実。 ・GIGAスクール構想に基づく通常校務の改善（職員会議資料、欠席連絡等） ・学習支援サービスの利活用及び学習用端末を使った授業実践推進 ・分散登校や臨時休業時の授業対応
		授業時間の確保	出張、年休の時に授業交換を確実に行う。 ⑤	A		
		広報活動の充実	中学校訪問、ポスターの配布、学校通信の配布等を通じて、中学校・地域への情報発信をより充実させる。 ①	A		
		観点別評価の推進	観点別学習状況の評価を推進し、評価による指導の改善を図る。 ⑤	B		
		校務支援システムの運用	校務支援システムのスムーズな運用を支援する。 ④	A		
		パソコンの機材更新、学習用端末の利用推進	古い機材を更新し、より効果的な教育環境を整える。情報セキュリティ実施手順に対する職員の共通理解を図り、タブレット等ICT機器の活用促進と研修の実施に努める。 ③⑤	A		
		図書館の積極的利用と書籍の充実化	図書委員会の活性化を図り、図書館の利用率を高める工夫をする。 ⑤⑪	B		
			生徒のニーズに応じた書籍等も選定し、蔵書の充実化を図る。 ⑤⑥	A		
		図書館の蔵書に関するOA化	図書館利用者の円滑な図書検索が可能となるように努力する。 ⑤	A		
			Eggシステムを有効活用するための環境を整え、蔵書管理のOA化を進める。 ④	A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と自主的自律的な態度の育成		毎月の登校指導で、挨拶・服装・頭髪・遅刻指導等を行う。 ⑨	A	A	・学年の先生方が、毎朝登校指導を継続して実施してくれたので引き続き行っていきたい。 ・コロナ感染症対策も兼ねて、各家庭との密な連絡を取ること。 ・タブレット等の高額な物品を所有しているので、貴重品の管理徹底を図る。 ・不審者等の対応で警察との密な連携を図りたい。
			生徒とのコミュニケーションを充実させて、家庭との連携を深めながら、基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑨⑪	A		
			教室移動の際、集合時間の厳守と貴重品袋の使用を習慣づけて、盗難防止対策の徹底を図る。 ⑨⑪	B		
	学校の安全管理の徹底		交通安全・防犯（特にネット関係）・薬物乱用等の講演会を開催し、理解を深める。 ⑪	B		
			不審者・変質者対策の充実を図る。（迅速な対応） ⑨	A		
			自転車通学者の通学届の提出・点検等を定期的に行い、交通安全の充実を図る。 ⑨⑪	A		

	P T A役員・保護者との連携を密にして、P T A活動の円滑な運営を図る。	四つの委員会活動をより充実させ、P T A活動への参加を高める。 ①②	B		・学校の実態に即したP T A事業の精選を検討していく。
		学校の実態に即した、組織の編成やP T A規約の検討を行う。 ⑰⑱	A		
進路指導	生徒の進路意識の高揚と、生徒の自己実現の支援体制の強化を図る。	『高校生のための学びの基礎診断』を実施して、学年・教科で学習の課題を共有し、学力向上を図る。 ③⑤	B	B	・感染症対策をしながら、体験的な学習の機会をいかに確保していくか。 ・外部模試の実施方法や回数などについて検討していく。
		進路希望調査、進路適性検査、模擬試験を行い、生徒面接の資料として活用する。 ⑤⑥	A		
		平常日の課外・土曜課外・長期休業中の課外、自学自習のための土曜日の学校開放を実施し、学力の向上を図る。 ⑤	A		
		2年特進クラス担当者会議を定期的に関き、模試分析を行うとともに効果的指導法を検討し、学力向上を図る。 ⑤	A		
	「総合的な探究の時間」における探究活動と関連し、進路指導の充実を図る。	出張講義・インターンシップ・一日看護体験・大学見学会等の体験的な学習の機会を設け、報告書・レポートの作成指導や報告会での発表指導等を行う。 ⑤⑦	B		
	入試改革に関する新しい情報の収集と共有を進め、その対策を検討する。	大学・短大・専門学校の入試説明会や、高教研進路指導部の研修会等に参加し、入試改革にかかわる情報を学年・教科と共有できるようにする。 ⑥	A		
特別活動	生徒会、各種委員会活動等の活性化	生徒会活動や学校行事での自主的・主体的な活動の支援に努める。 ⑪⑫	A	A	・生徒会活動は生徒自身の積極的な取り組みにより、活発に行われている。しかし、今年度も昨年度に続き、コロナ禍の中、多くの行事の変更を余儀なくされた。 ・コロナ禍の中で、学校行事・HR活動・部活動・委員会活動をどのように実施していくかの工夫が必要である。 ・部活動への積極的な加入を働きかけるために学年との連携を密にして活性化を図りたい。
		各種委員会活動の計画的な運営や充実を努める。 ⑪⑫	A		
	HR活動の活性化と充実	HR活動で、生徒の主体的な取り組みを支援し、成就感や達成感を体験させる。 ⑫	A		
		キャリア・パスポートを活用し、高校生活の見通しと振り返りにより生徒にとって今後の人生の「道しるべ」となるようにする。 ⑬			
	部活動の活性化と活気ある校風の形成	体育部、文化部への積極的加入を促し、安全に、短時間で効率的な活動を実施する。 ⑪⑬⑱	A		
		ボランティア活動等への積極的な参加により社会性を育てる。 ⑪⑫	A		
保 健	学習環境の整備	毎日、全職員と生徒による清掃を徹底する。 ⑩⑬	B		・毎日清掃の徹底。 ・外部の方々が来校する行事の際、
		教室内外の整理整頓に努める。 ⑩⑪	B		

保 健		環境衛生検査（照度・空気・水質・ダニ・放射線等）を定期的に実施し、適切な学習環境を整える。特に換気の徹底に努める。 ⑩	A	B	清掃の徹底及び確認。 ・ゴミ捨ての徹底。 ・暖房規定の周知と遵守。 ・施設・設備の安全点検（点検方法の見直し）。
		教室での冷暖房の適切な使用を促す。 ⑪	B		
		敷地内禁煙の徹底に向けて、教職員の協力態勢の確立に努める。 ⑪	B		
	保健指導の充実	保健指導及び健康管理指導の充実を図り、生徒一人ひとりが自分の体調管理をできるようにする。 ⑪	B		
		保健だよりを定期的に発行し、保護者との連携を図る。 ②⑪	C		
	施設設備の点検と安全管理	定期的に施設・設備を点検し、安全な教育環境を整備する。 ⑩	B		
	生徒・保護者の支援ニーズに応じた相談体制の確立	生徒・保護者の支援ニーズを知るために、保健室や担任・学年との連携を図るとともに、各種調査を行う。 ⑪	A		
		スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の来談の計画・実施を行う。 ⑪	A		
		生徒・保護者のニーズに応じて個別の相談対応を行う。 ⑪	B		
	職員研修の充実と生徒理解への支援	生徒支援に役立つツールの紹介や援助方法についての研修を行う。 ⑪	B		
第 1 学年	基本的な生活習慣と自律した生活習慣の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。 ⑨⑩⑪	A	B	・清掃について担当不在の際の対応 ・家庭学習の時間の減少に対する対応を工夫する。 ・手帳の提出率が下がってしまったので、自己管理のための必要性等を伝えていきたい。 ・生徒指導について、学校全体で共通理解をもった指導ができるよう密な連携を図りたい。
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境や学習環境を整える。 ⑨⑩	B		
	進路を見据えた学習習慣の確立	予習復習や課題等を通して基礎学力の定着を図る。 ③④⑤	B		
		進路ガイダンス、進路講演会等を有効に活用し、課外や検定試験の積極的な受験など、主体的に自らの進路を切り拓く力を養う。 ⑤⑥	A		
	人間力の育成	道徳やHR活動、部活動等を通して、豊かな心、コミュニケーション力を育む。 ⑫⑬	B		
		国際理解教育、メディア教育を重視し、これからの社会に適応し、活躍できる力を育む。 ⑭⑮⑯	A		
第 2 学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。 ⑨⑩⑪	A	B	・基本的な生活習慣の確立として、遅刻や欠席の多い生徒への指導を工夫する。 ・手帳の活用等を呼びかけ自己管理の具体を示して行動変容を促す。 ・清掃の取り組み方は、生徒の実態に応じて工夫する。 ・課外や検定への積極的な参加を促
		継続指導の下、校則を遵守し、日立二高生らしい容姿を身に付けさせる。 ⑨⑩	B		
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境や学習環境を整える。 ⑩⑪	B		
	進路実現に向けた学習習慣の確立	各教科において予習、復習の習慣づけを工夫し、基礎学力の確立を図る。 ③④⑤	B		
		外部模試の有効活用や個々に応じた指導を行い、学力向上を目指す。 ③④⑤⑥⑦	B		

		進路ガイダンス、進路講演会等を有効に活用し、主体的に自らの進路を切り拓く力を養う。 ③⑤⑦⑪	B		
		課外授業、模試、インターンシップ、資格試験への積極的な参加を促し、進路意識の高揚に努める。 ③⑤⑥⑦	A		
第2学年	人間力の育成	日々の学校生活およびHR活動等において、真のコミュニケーションを心がけ、温かく誠実な心を育てる。 ⑥⑫⑬	B		すとともに、合格へのサポートもおこなっていききたい。 ・部活動と学習の両立に悩む生徒への対応を丁寧におこないたい。 ・生徒指導について、学校全体で共通理解をもって指導にあたるべく密な連携を図りたい。 ・生徒が主体的に進路実現に向けた行動がとれるよう促し、細やかな指導をおこなう必要がある。
		部・委員会活動及び学校行事やボランティア活動等へ積極的に参加させ、健全な心身の成長を促す。 ⑫⑬	A		
		修学旅行に向けて十分な事前指導を行い、国際社会及び平和について自ら考える力を養う。 ③⑪⑬	B		
第3学年	基本的生活習慣と自律した態度の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。 ⑨⑩⑪	B	B	・規律ある生活を送るために、進路を意識して、自己の体調管理を行う必要がある。 ・今年度も感染の影響がある中で、生徒の合格率については比較的良好だったように感じた。来年も同様の状況であることを見据え、生徒には長期的な計画をともなう学習を促していくべきだ。 ・ボランティアや高大連携はできるうちに積極的に参加させるよう促していきたい。 ・進路や学校生活全般において、自ら考えて行動できる指導が必要である。総合的な探究の時間を有効活用するとよい。 ・面談を通して生徒の変化を捉え、各方面と協力して対応していく必要がある。
		継続指導の下、校則を遵守し、日立二高生らしい容姿を身に付けさせる。 ⑨⑪	B		
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境と学習環境を整え、奉仕の心を育てる。 ⑩⑪	A		
	進路実現に向けた学習習慣の確立	授業を中心に、積極的な課外活動への参加や家庭学習を促し、学力の育成を図る。 ④⑤	B		
		外部模試や検定の有効活用や個々に応じた指導を行い、学力向上を目指す。 ⑤⑥⑦	C		
		総合的な探究の時間を活用した系統別進路学習により、進路実現に向けての能力を高める。 ⑤⑥⑪	A		
		時事問題や一般常識への関心を高め、社会とつながる進路決定ができるよう指導する。 ⑤⑥⑦	B		
	人間力の育成	日々の学校生活およびHR活動等において、良好な人間関係を築き、温かく誠実な心を育てる。 ⑪⑫	A		
		部・委員会活動及び学校行事やボランティア活動等へ積極的に参加させ、健全な心身の成長を促す。 ⑪⑫⑬	B		
		自己管理能力を高めさせ、自ら考え責任を持って行動する力を養わせる。 ⑥⑪	B		

評価方法〔A、B、C、D、Eの5段階で評価する〕

A・・・十分達成できている B・・・達成できている C・・・概ね達成できている D・・・不十分である E・・・できていない